

エンパワーするNGO



大阪YWCA

8

2023

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

すべての国の安全保障が損なわれないという原則 (the principle of undiminished security for all)



樋川 和子

広島サミット記念シンポジウムでも簡単に触れたのですが、タイトルにあるこの原則は、大成功といわれた2000年NP T運用検討会議の最終文書に盛り込まれた「核軍縮に向けた13の措置」の前提として、NP T締約国が合意したものです。G7広島サミットで採択された「核軍縮に関する広島ビジョン」の冒頭でも言及されています。

なぜこの原則が重要なのかといえば、「核兵器がなくなることによって自国の安全保障が脅かされると考える国がある限り、核軍縮・核廃絶は実現しない」からです。

何故、核兵器を持ちたいと考える国がいるのか。もつとも単純な答えは、自国の安全 (security) のため (security) という言葉でここでは「安全保障」ではなく「安全」と訳させていただきます。

その方が分かりやすいかと思えます。

ソ連崩壊によって核兵器を放棄したウクライナがロシアに侵攻されたことで、ウクライナは核兵器を手放すべきではなかった (正確には手放したのではなくて手放さざるを得なかったわ

けですが)、ウクライナのように侵攻されないうためには日本も (アメリカの) 核兵器を使えるようにすべき、といった議論が日本国内で持ち上がりしました。このことから自国の安全を担保する上で、核兵器に期待する考え方があることはお分かりいただけるかと思いますが。

実際、NP Tができるまでの間、アメリカに続いて、列強国が次々に核開発に乗り出したのは、自国の安全を守るためでした。

核兵器を巡る問題はとても複雑です。

現在核兵器を保有する国は世界に9カ国あり、核兵器開発に至った経緯は様々ですが、共通していることは、核兵器を持つことによって、彼らが考える自国の安全というものを守りたいと考えたことが背景にあります。

アメリカが日本や韓国に拡大抑止という形で (ドイツには地理的要因から核共有という形で) 核の傘を提供しているのは、これらの国が自国の安全を考えて核兵器開発に走らないようにするためだと考えられているのはそのためです。

このように考えると、核廃絶を実現するためには、「すべての国の安全保障 (security) が損なわれない」という原則が重要であることがお分かりいただけるのではないかと思います。

では、そのためには何をしなければならぬか。

我々が取り組まなくてはならないのは、どのようにしたらすべての国が、核兵器がなくても自国の安全が確保できる、もしくは、核兵器がない方が自国の安全が確保できるという状況を作れるか、ということなのではないでしょうか。

ひかわ かずこ

大阪女学院大学・大学院教授、日本国際問題研究所客員研究員。核軍縮検証に関する国連政府専門家グループ・メンバー (2019-2023年)。専門は核軍縮・核不拡散。山梨県出身。1995年4月外務省入省。在ドイツ日本大使館、軍備管理軍縮課、在ウィーン国際機関日本政府代表部、在アメリカ日本大使館、不拡散・科学原子力課、在イラク日本大使館、女性参画推進室などで勤務 (2013年8月-2019年12月まで外務省軍備管理・軍縮・不拡散専門官)。2020年4月から現職。

ゆい 沖縄と大阪の『結』

LA第Ⅲ期企画 女性の人権とジェンダーの課題を見つめて



大阪でのインターンシップの様子

LAとは地域YWCAを主体とした活動=Local Actionのことで、沖縄と大阪のYWCAが協働して日本YWCAの資金援助を得て実施している。2023年度は沖縄発の講座と大阪発の講座を通して人権とジェンダーに関する課題を分かち合い、共に学び合う。それを2024年度実施予定の沖縄・大阪でのフィールドトリップにつなげる。公開講座と次年度のフィールドトリップは単発参加も可能なので、みなさんの参加をお待ちしています。



沖縄のインターンシップメンバー

沖縄と大阪を結んで女性の人権とジェンダーの課題を考える 公開講座

第1回 7/22(土)

「沖縄の貧困が若年女性たちに及ぼす影響」終了

第2回 8/26(土)

「部落女性の立場から家父長制と部落差別を考える」

講師:川崎那恵

(フリーの社会活動家、テーマは人権とスティグマ)

第3回 9/9(土)

「もっとまぜてみよう! 世界はもっとオモシロイ
～改悪入管法反対アクション」

講師:渡邊さゆり

(マイノリティ宣教センター共同主事)

第4回 9/23(土)

「沖縄の10代ママを通して見える世界
～『おにわ』での支援より～」

講師:伊礼ゆうき(若年ママの出産・子育て応援

シェルター『おにわ』現場統括)

第5回 10/28(土)

「在日二世である私が私であるために
～一歩踏み出せば風は変わる」

講師:新井深絵

(ソウル/ゴスペルシンガー 人権活動家)

第6回 11/18(土)

「LGBTQ+のこれからについて話そう
～ふたりママになる選択の壁と希望」

講師:Mato(LGBTQ×家族×子育てfufu-hug

(ふふはぐ)代表 同性パートナーと子育て中)

はじまりは

2年前の大阪YWCAピースフェスティバルは、沖縄YWCAの協力を得、今回の公開講座の講師を務める伊礼ゆうきさんをゲストスピーカーに迎え、「沖縄の基地から見えてくるもの」をテーマに実施した。基地があることで本来の生活が歪められ、人権や環境が脅かされる現状を知り、沖縄の問題を沖縄だけの問題にせず、共に考え、行動につなげていくこれからの道を模索した。貧困や家庭崩壊における若い女性の性的搾取は、沖縄だけでなく大阪でも起きている。手を取り合って何か一緒に出来ることはないかと考えることから始まった。

沖縄と大阪から

コロナ禍の時期を経てオンラインでの研修や講演が容易になり、沖縄・大阪の距離が障壁とならない時代だからこそ出来ることがある。それで、左に掲げる全6回の大阪・沖縄発の公開講座を企画した。それぞれの講座に登場する問題は地域によって表面化しやすいものもあるが、通底するものがある。人権侵害を自分たちの日常の延長線上にある問題と捉え、新たな繋がり築いていくきっかけにするのがこの講座の目的だ。

インターンシップと連携

大阪YWCAでは、若い女性を対象に2021年からインターンシッププログラムを実施している。その目的は、①社会と自身自身にあるジェンダー規範への理解を深め、②実生活の中の自身自身と他者の権利について理解を深め、③その学びを生かして社会に対して行動を起こすことを目標に、チームワークとリーダーシップの力を高めることだ。今年度はLA企画にインターンシッププログラムを組み込み、公開講座での学びを活かしつつ、来年度の沖縄・大阪のフィールドトリップをインターン生に立案してもらい、企画力、チーム力を培う。それぞれのフィールドトリップは2024年8月大阪、2025年2月に沖縄を予定している。(文責 編集部)



218

だいじょうぶだよ

もう、何年前になるか牧師の説教から、晴佐久神父の『だいじょうぶだよ』という本を知った。

どのタイトルを読んでも神父の優しさが溢れ、心が癒され感動したことを思い出す。この本から「大丈夫よ」という言葉の優しさを深く知った。もう何人にこの本を贈っただろう。何人に「大丈夫よ」と声をかけただろう。

今、遠く離れている兄が治癒はむづかしい状態で床に伏している。「さようなら」の代わりに「大丈夫よ」とそつと声をかけると、少し笑みをうかべた。

兄嫁は認知症になり、とまどい、不安な日々を送っている。「大丈夫よ、大丈夫よ」と肩を抱くと安心して少し落ち着く。私は「大丈夫よ」と声をかけながら、「主よ、お守りください。いつも共にいてください」と心の中で祈っている。

私にとって『だいじょうぶだよ』という本は、今でも大切な「宝物」となっている。

(会員 相澤 美子)



仲間がみんな待ちわびた「対面」集会

2023年度 加盟YWCA中央委員会

2023年5月27日（土）10時～16時半、大阪YWCA梅田会館3階ホールで、2023年度加盟YWCA中央委員会がオンライン併用のハイブリッド開催、全国から40名が集合、ほとんどが対面での参加だった。実際に顔を合わせて話せる機会を待ちわびていた仲間が多かった、ということだろう。先立つ5月17日（水）19時半～21時、コロナ前には中央委員会の前日に開催されていた会長会は、今回はオンラインで実施40名の参加だった。

中央委員会は、年に一度、全国の加盟YWCAの会長、総幹事、日本YWCA運営委員と職員が一同に会し、1年間の日本YWCA活動（事業）報告、決算報告、次年度の予算および事業計画の説明を受け承認するのが一番の目的であり、加盟団体である学校YWCAの新規加入も議題に上がる。毎年3月ニューヨークで開催される、国連女性の地位委員会（通称CSW）へ派遣されたユースからの報告もあった。休憩時間には、会場各所で旧交を温めたり、持ち寄りの品を購入し合ったりと、志を共にする全国の仲間との楽しい交流が広がっていた。議事だけではなく、毎回工夫を凝らしたプログラムが用意されているが、今回は「サステイナブル（持続可能）な会員活動のために」と題して、平和・核・com7300・中高Y・人権ジェンダー各委員会から提供された課題について話し合った。複数の課題のテーブルを渡り歩いて、極力異なるメンバーと出会う、ワールドカフェという形式でたくさん意見を交換し合い、盛りだくさんで意味深い一日だった。

（会員 津戸 真弓）



映画「丸木位里 丸木俊 沖縄戦の図 全14部」



『原爆の図』で知られる丸木位里、丸木俊が晩年に取り組んだ『沖縄戦の図』。「沖縄戦はどう考えても一番大変なことが起こった。原爆をかき、南京大虐殺をかき、アウシュビッツをかいたが、沖縄を描くことが一番戦争をかいたことになる」(丸木位里)「戦争というものを簡単に考えてはいけません。一番大事なことが隠されてきた、このことを深く掘り下げて考えなければなりません」(丸木俊)

映画は全14部を紹介する初めての試み。「空爆」や「空襲」とは全く違う様相を見せた地上戦の真実、戦争に対する告発、最後に未来への祈りを表している。機会があれば佐喜真美術館を訪れて実際の作品も見たい。

（会員 小澤 裕子）

1975年、日韓両国間の懸案問題を共有し女性の視点から社会の変革を成し遂げることを目的に始まった日韓YWCA協議会（カンファレンス）は、今年第11回を迎え、日本から会長、副会長をはじめ、大阪Yユースを含む地域Y会員、職員ら10名が参加、韓国側15名の参加で韓国で開催された。

日本側の準備会ではテーマに関して真剣な討議が行われた。それというのも、今まさに日本政府が始めようとしている福島第一原発の汚染水（ALPS処理水）海洋放出に反対の決議をし、共同声明のプレスリリースを行って、脱核運動のアピールを行うことが今回の協議会の真の目的であったからだ。

（会員 鹿野 幸枝）

原発のうち18基が稼働中だが、火曜日を「火の日」と定め脱原発キャンペーンを展開。老朽化した古里1号基の閉鎖を求める10万署名を実施し、延長稼働を試みていた同原発の永久停止を市民の力で成し遂げた。日本の汚染水海洋放出が本決まりになると、韓国YWCA全国会長会で放流阻止を決議、SNSや手紙を使った様々な方法で阻止に向けた運動を展開している。

海は一国のものではない。放射性汚染水の海洋放出は韓国をはじめとする太平洋沿岸国、そして同じ海を共有する世界中に被害を与える事案である。



☆大阪女学院
中学校・高等学校
<http://www.osaka-jogakuin.ed.jp/>
大学・大学院・短期大学
<http://www.wilmina.ac.jp/>

創立1884年。愛と奉仕の精神で 社会に貢献する女性を育てます

聖書の言葉

主はこう言われる。正義と恵の業を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救え。寄留の外国人、孤児、寡婦を苦しめ、虐げてはならない。（旧約聖書エレミヤ書22章3節）

日本語教師汗まみれ



50年以上の歴史をもつ
大阪YWCA専門学校の日
本語教師養成講座は2024
年3月末で幕を閉じます。

教師となった修了生の
今を追いかけてみます。



ベトナムの日本語学校の学生
たちと親睦会にて
(筆者 右列前から3番目)

ベトナムや夜間中学校、日本
語学校で教えてきて、そろそろ
6年になります。今も日本語
を教えることの難しさに七転八
倒しています。そしてこれからも
そうです。そういう時に養成
講座で先生方から教えていた
いたことを思い出して頑張つて
います。

でも、言葉を持つ、物理や数学
を勉強するときとは違った、使い
分けのルールがどこかにあるはず
だがよくわからない、この二つの
言葉はどこかで区別できるはず
だがどこかわからないという、こ
の曖昧な感じに興味津々です。

(福山 誠一)

ピースフェスティバル2023

9 / 9 (土) 13時~16時半

@大阪YWCA本館

第1部 交流会 スリランカカレーのランチつき

ゲスト：アウン・サンサン・マキン牧師

参加費：¥1,000

第2部 講演会

「もっとまぜてみよう！世界はもっとオモシロイ」

講師：渡邊さゆり(マイノリティ宣教センター共同主宰)

参加費：¥500、カンパ付き¥1,000、30歳以下無料

大阪YWCA専門学校

奨学金授与学生の紹介



2023年度春期奨学金授与式の様子
(前列左2人目からガンゾリグさん、アヌさん、
ビルグリーンバヤルさん、セルゲレンさん)

今学期もたくさんさんの奨学金
申請があったなか、4名の奨
学生が選ばれました。皆さ
ん、モンゴル出身の学生で
す。まず大阪YWCA奨学
金を受けた2名の学生を紹
介します。ガンゾリグさんと
アヌさんは、ともに日本の大
学院を目指して日本語の勉強
をがんばっています。それぞ
れが国際関係、貿易について
専門的に学び、将来は日本と
モンゴルで活躍できる国際人
になりたいと話してくれまし
た。そして大阪YWCA留
学生里親の会奨学金を受け

たビルグリーンバヤルさんは、
大阪YWCAの日本語の先生
たちは親切で丁寧な日本語を
教えてくださるので、とても
早く習得できていると教えて
くれました。最後に鈴木保
奨学金を受けたセルゲレン
さんは、物価高騰で苦しかっ
た生活費を奨学金で賄うこと
ができるようになり、心配ご
とがなくなったと話してくれ
ました。皆さん、おめでと
うございました。今後も目標に
向かって、がんばってください
ね！

(職員 奥 美和子)

ご協力ありがとうございました

【23/5/1~23/6/30】敬称略順不同

賛助費

大野 弘美 梶原 汎子 黒田 朋子
佐藤 朋子

寄付

点字

栗野 陽一

点訳サークルシックスポイント

その他

上田 賢博 片山 隼亮 都木 恵子

会員維持費

秋山 佳子 浅井やす世 朝岡 千晶

井上由貴子 妹尾 弓子 植木 知子

大原千恵子 片山 淳子 川勝 宏子

川崎 道子 貴島 照代 金 香百合

日下部充栄 細瀬 美香 木幡 弘子

小八木晴代 齋藤 知子 坂上 信子

阪本 和子 笹部 昌子 鹿野 幸枝

白井 邦子 鈴木 一代 妹尾 弓子

高田 良子 田中 慶子 谷 佐代子

谷川いづみ 辻 加代 寺坂阿佐子

寺脇さつき 徳広 彩 中山 羊奈

二谷世津子 藤岡美智子 古河 順子

古山 幸子 帆足 文子 堀本千代子

本田 芳子 前川 契子 村松 通子

森垣 房子 安田 乙世 山本 淳子

募金

匿名1名
8口 141、534円

5月運営委員会報告

【報告】▼東日本大震災被災支援チーム HPRリニューア
ル完了 ▼日本語学科別科
夏期に小中学生向けコース開催
検討中 ▼講座部 ソーシャル
ワークセミナー、大阪市ボランティア
活動振興基金より30万円助
成決定。

【協議】

1 2023年度の組織
と担当の二部調整 2 外部団体
の担当決定 3 世界YWCA日
集会(5/20(土))当日の進行
確認、役割分担 4 会員向け情
報発信用メールリテラリスト作成呼
びかけ検討

6月運営委員会報告

【報告】▼財務委員会 202
2年度決算 経常収益の事業
収入が前年度比増。コロナが5類
へ移行し留学生の入学が好調。

6/21大阪YWCA里親の会、
鈴木保各奨学金授与式3万円
×6ヶ月を4名に。会員ルーム
キッチン換気扇入れ替え。▼千
里委員会 6/3千里ミバザ
ー ▼梅田委員会 6/17梅田

1 梅田委員会 6/17梅田
1 梅田委員会 6/17梅田

【協議】1 9/9(土)予定のピー
スフェスティバル内容、開催時間帯
協議 2 運営委員会改革につい
て、無理なく継続していくための
あり方検討